

第 22 回 協働のまちづくり推進特別委員会

令和 5 年 12 月 25 日 (月)

13 時 30 分～ 時 分

第 2 委 員 会 室

【委 員】 西田委員長、~~上野副委員長~~

村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 松井次長、小寺書記

議 題

1 地区まちづくり推進委員会との意見交換の振り返りについて

(1) 報告書共有

(2) 提言書への追記

(3) その他

2 その他

(1) 政策討論会幹事会への議題提案について

(2) CATV 行政情報番組への応募について

(3) その他

○次回開催 月 日 () 時 分

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書（弥栄地域）

実施日、会場（ 12月4日、弥栄会館 ）

出席委員（ 西田、上野、柳楽 ）

地区まちづくり推進委員会出席者（ 6名 ）

意見交換会で出た意見

- ・会議等の数が多くて出掛けるのが大変。同じ人が出るようになって、若者を含め新しい人に出てもらえない。
- ・もう少し行政の職員に入って助けてもらいたい。
- ・市が提案する事業と、住民の現状がそぐわないところがある。
- ・創造会議の計画書に基づいて事業を組み立てている。
- ・計画書作成時にはアンケート調査を行い、これまでに行った複数のアンケート結果を寄せ集めて作成した。
- ・機能していない集落もあり、まちづくりがなくなったらどうなるか心配。
- ・まちづくりは始まったばかりだが、次のステージが見えない。
- ・生活していくのに必要なものがどんどんなくなっていく。人口が減っても生活がきちんとできる基盤は残してほしい。
- ・協働のまちづくり推進条例の中では共助を謳われているが、行政の伴走が必要。
- ・合併してからいいことはない。若者が来るような地域にしてほしい。
- ・地域の魅力を引き出すコーディネーターが欲しい。
- ・計画を実現するために必要な情報を収集し、提供してほしい。
- ・自然を生かす。それこそが弥栄、中山間地域の魅力になると思う。
- ・今後、支所がなくなり、サービスが低下するのではないかと心配する。
- ・本当にやりたいと思うことに予算を講じてほしい。

提言に反映させるべき内容

柳楽

- ・行政の伴走が必要。
- ・地域が本当にやりたいと思うことに予算を。
- ・市が考える政策と、地域の現状が合っていない。
- ・まちづくりの次のステージが見えない。
- ・職員との交流の機会が欲しい。

上野

- ・合併前には職員との話し合いなどがもっとあった。そうした関係が大事。

西田

- ・人口が減っても医療や福祉など絶対必要なものをなくさないという意気込みは協働のまちづくりの中では重要。
- ・真のまちづくりを掲げたら官民一体となって予算建て、プロセスを共有して推進

すること。

所感

柳楽

- ・弥栄のみらい創造会議の計画に基づき事業を計画されていることは、大切なことだと感じた。生活に関わる機能がどんどん減る中で、今後、地域をどう維持していくのかという現状の中で、先の方向性が見えないことに大きな不安があると思うため、市が考える地域の今後のあり方を丁寧に示す必要があると考える。

上野

- ・人口減少が進んでいる中で、女性の方が家族を置いて忙しい時間帯に参加され、役員となり手不足で女性も大変である。地域を何とかしたいとの気持ちが伝わった。大規模農業が主でなく小規模農家の有機農業など地域とのつながりをもっと大事にしてほしいという声も聴けた。

西田

- ・弥栄みらい創造会議の役員の方々、それぞれに熱い想いや考えを持っている。体験村の必要性の考え方は両意見ある。若い人は自分の時間を大事にしており、まちづくりに参加している場合ではないという考えがある。人口が減っても絶対必要なものをなくさないという意気込みがある（医療、福祉）。真の有機農業を目指すなら、プロセスから予算建てを職員も一緒になって検討する機会を増やすことが大事という意見があり、協働のまちづくりの方向性でもある。

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書（浜田地域）

実施日、会場（ 12月7日、浜田まちづくりセンター ）
出席委員（ 西田、上野、村木、村武、柳楽、岡本、芦谷 ）
地区まちづくり推進委員会出席者（ 名 ）

意見交換会で出た意見（田町、殿町、片庭、えびす新町、みはし、後野、朝日町）

①計画策定時の悩みの有無 ある→5団体、ない→2団体

・誘っても出てこられない ・連絡方法 ・約1割の方しか協力していただけない
・規模が大きいのので、統一感が取りづらい ・子どもが減って子ども会ができない
・行政の一方的な進めで困り感がある ・現状のままで良い ・役員のなり手がいない
・行政に入ってほしくない

②運営に関する悩み

・町内会長に委員会に入ってもらっているが、1、2年で交代するので、引き継ぎ等ができない
・事業のマンネリ化 ・住民の意識がない ・役員のなり手がいない
・行事の参加者が少ない ・役員の固定化、高齢化 ・行事の参加者の固定化
・若い役員の育成、巻き込みが難しい ・交付金を飲食に使えるようにしてほしい
・小学校がなくなり、まとまりがなくなった ・加盟していない町内がある
・まちづくり組織では会計がいなくなりそう ・まちづくりセンターでやってほしい
・女性リーダーが増えてほしい ・役員の負担が増加してきたので、組織存続が難しくなってきた
・次の人に頼みにくい

③各種関わり

・コーディネーターとの関わりはない ・コーディネーターにもっとまちづくりの関わりを持ってほしい
・まちづくりセンターは遠い ・近くに集会所が欲しい
・まちづくりセンターとは関わりがある ・チラシ作成や印刷など、事業に関しても相談に乗ってもらっている
・旧浜田地区をまとめてほしい ・まちづくりを超えて連携しての事業など考えたらあると思う（浜田川沿いの草取りなど横のつながりをつくってほしい）
・コーディネーターの配置が少ない ・人口が少ないので交付金が少ないが、もっとあればしっかりした活動ができる
・組織云々より、人口増になるようしっかり取り組んでほしい ・協働のまちづくりが何のためなのか、何もしなくても暮らしていけると住民は考えている
・協働する風土がない、意識改革が必要 ・交付金基準の見直し ・報告書等の書類をもっと簡単にしてほしい

④議会や市へ求めるもの

・議会でもっと市民の声を拾ってほしい ・この集まりをどうするのか ・市役所の課が多すぎる
・まちづくり、町内会に関係することは1本にしてほしい ・そもそもまちづくりとは何なのか
・他地域の取組が知りたい ・考え方、協力しようという思いの共有が必要

意見交換会で出た意見（久代、国分、下府、上府、唐鐘、宇野）

- ・町内会に無関心の人が多く、地域の行事や祭りの参加者が少なくなっている。そこで息子等の若い人に声掛けをしていく中で青年会が立ち上がった。
- ・子ども・若者の行事参加が少ないが、子ども神楽を取り入れたら増えてきた。
- ・コロナ禍の影響でこの3年くらい地域行事ができなくなっていた。コロナも少し落ち着いて一部の行事は復活したが、運動会などはやりたくないという声も出て再開が難しいことから、運動会に代わるものを模索している。
- ・まちづくりセンターの事業を引き継いで活動している。
- ・コーディネーターのまちづくりへの関わりが見えない。
- ・まちづくりセンター職員とどう関わっていいか分からない。
- ・今回で多様な課題を共有し解決策を模索するために、連絡協議会を立ち上げてはどうかと思う。既存の枠にとらわれなくていいのではないかな。
- ・申請書の訂正が多くて、交付金の振り込みが遅れた。事務の簡略化や事務方のサポートをしてほしい。
- ・議員もまちづくりに参加してほしい。
- ・交付金の使途が厳しいので寛大な対応をしてほしい。
- ・まちづくりはずっと継続するものだと思うが、形は変わっていくのだと思う。
- ・役員や事業の継承が難しい。
- ・コロナ禍の前任役員から受け継いで、事業(運動会)計画策定についてアンケートを取ってみるが実施にならない。前向きな意見がない。
- ・年2回のグランドゴルフや運動会、敬老会、自主防災に取り組んでいるが予算と後継者不足に悩み。
- ・地区によって子供が少なく、親を巻き込んだ活動が難しい。
- ・回覧板の回覧が停滞する。
- ・地域活動に次世代や子育て世代、子供会、PTAの参加が少なく悩んでいる。
- ・これから先さらに高齢化するので運営が難しくなることに危惧している。
- ・まちづくりセンターの役割が見えなくなった。
- ・各自治組織の老若のばらつきが顕著、運営が難しい。
- ・連絡協議会で高齢化や公共交通などについて話し合う組織が必要では。
- ・自治会費の金額に75歳以上とほかの差をつけて運営している。
- ・事務方をサポートできる仕組みを望む。
- ・市道改修の要望を出しても、なかなか実行されない。
- ・上府保育園駐車場のり面崩壊について要望書を出している。

意見交換会で出た意見 (大麻、周布、長浜、美川)

- ・ 総合交付金が使いにくい
- ・ 総合交付金の報告書が難しい
- ・ まちづくりセンター職員が事務局を担えないと聞いている
- ・ 少子高齢化の昨今において、どのような事業をしたらよいか分からない
- ・ 地元の資源を生かしたいけど、どう生かせばよいか(貯木場、JR 駅等)
- ・ 一方、地域資源を生かしている話も→美川の野球(学童と成年)
- ・ 6年ぶりに活動再開、人手がなく自治会も事務局と一緒に、新たな活動に動き出した
- ・ コロナ禍で地域コミュニティがなくなった
- ・ 交付金の使い方について制約が多い
- ・ まちづくりどころではなく、宮・寺・農業など時間を取られる
- ・ 自治会輸送で高齢化している
- ・ 町内会に入らない人も多い交付金スケールで測るのでなく一律な支援を
- ・ 交付金チェックが厳しく 20 団体から不満
- ・ 防災、要支援者、民生委員との活動に支給された
- ・ 踏切や折居駅を生かした活動を

提言に反映させるべき内容

村木

- ・ 総合交付金のあり方(特に用途の自由度と地域加算)
- ・ 地域の資源をどのように生かすか
- ・ 地区まちづくり推進委員会における「事務局」のあり方を整理、検討
- ・ 若者の参画の必要性
- ・ 学校を核としたまちづくりのあり方

村武

- (1)町内会、まちづくり推進委員会など、地域にいくつもの組織がある地域がある。必要に応じて整理する必要がある。
- (2)まちづくりにおける活動についてまちづくりセンターに相談しやすい体制をつくり、職員もまちづくりの知識をつけ、積極的にまちづくりに関わっていく必要がある。
- (3)まちづくり組織を運営していく上で、まちづくりコーディネーターを必要とている。まちづくり推進委員会に出向いて行き助言、支援をしてほしい。
- (4)組織に入っている町内会等の役員が短期間で交代する。関わった人材をどうつな

げていくかを考える必要がある。

(5)そもそも「協働のまちづくり」とは何か。その必要性についても理解が進んでいない。根本的なところから丁寧に説明する必要がある。

柳楽・岡本

- ・まちづくり組織同士の課題や活動状況を共有し、解決策を模索する場が必要。
- ・まちづくりコーディネーターやセンター職員との関わり方への助言。
- ・申請手続きの簡素化や、事務方への支援が必要。
- ・交付金の増額。
- ・議員もまちづくりに参加してほしい。

芦谷

- ・自治会がありその上にまちづくり委員会をつくり、これらの役割分担ができうまく機能しているか。そのほかの組織の役員と兼ねていることが多い、組織や役員体制が分かりにくく整理統合する。市の機能を整理すること、まちづくりが各課に分かれており一つにする。
- ・まちづくりの拠点、集会所などを整備する。浜田まちづくりセンター、石見まちづくりセンターはその範囲が広く使いにくい。まちづくりコーディネーターの活動が見えない、相談できない、増員が必要。
- ・まちづくり総合交付金の増額を。使いにくい、事務手続きの簡素化を。

西田

- ・人口規模が多い地域は、より細かい地域住民の意識の醸成に努めることが重要。

所感

村木

- ・担当した大麻、周布、長浜、美川は、地区まちづくり委員会が設置されている地域であり、それぞれが委員会の活動をされているが、次の2点が気になった。
 - ① 地区まちづくり推進計画の存在が見えず、単年の事業計画の話であった
 - ② 地区まちづくりセンターとの関わりにおいて濃淡が見られた
- ・大麻地区の「自治会輸送」の今後がたいへん興味がある。

村武

- ・浜田地域は人口も多いので人材は多くいるだろうと思われがちだが、関係性の希薄化などでまちづくり推進委員会に関わる人が少ない。住民がまちづくり活動の目的や必要性などを理解する必要があると強く感じた。今回参加した役員でさえも理解していないのではないかと感じる場面が多かった。センターやコーディネーターとの関係性をしっかり構築していく必要がある。地域のことに関わったり考えたりする住民を増やすために、まちづくりセンターでの生涯学

習や社会教育的な活動が重要である。それをしっかりと進めていくために、センター職員はしっかりとしたスキルを付けてほしい。そのための職員待遇など今後は検討していく必要もあると感じた。

柳楽

- ・今回の意見交換会がきっかけとなり、まちづくり団体同士が集まって課題解決等の意見交換の場を設けてはどうかという意見が出たことは、とてもありがたいことだと感じた。地域行事のあり方や次世代への継承など共通の課題が多いが、コーディネーターやセンター職員との連携が、上手く図られていないことは残念であり、助言が必要と考える。

岡本

- ・少子高齢化の状況の生の声に苦悶する。地域活動に次世代や子育て世代、子どもの参加が少ない。唯一、神楽でつながる。これから先の高齢者の事務運営はさらに厳しくなるので、まちづくりセンターの関わりが必要。役員の後退がスムーズにできる仕組み（ルール）が必要。必要性の高い回覧板の運営についての仕組み。次世代が参画しやすい方策を。自主防災からの繋がりによって、次世代の関心からの関与に期待できるのでは。

上野

- ・旧市内でも人口の多いところとそうでないところとの意識の違いがあった。大麻、美川と旧郡部と話が合う部分が多くあった。過疎化による人材不足。そこで自治会とまちづくりと一緒にやらざるを得ない。良いことでもあるが負担も増えるため、今後役員のみなり手がなくなるのではないかと心配する。

西田

- ・多人数のため、東・中・西の3班に分かれてヒアリングを行った。それぞれの地域特性に応じた意見交換がしっかり行われていた。皆積極的で、これからの意識の醸成に期待するものがあると感じた。

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書（金城地域）

実施日、会場（ 12月8日、みどりかいかん ）

出席委員（ 上野、柳楽、岡本 ）

地区まちづくり推進委員会出席者（ 12 名 ）

意見交換会で出た意見

- ・まちづくりについて、住民の理解が進んでいない。センターだより以外に伝える方法はないのか。
- ・協働のまちづくり推進条例が理解されていない。市は住民にこうして協働のまちづくりを進めるんだということを示してほしい。議員も。
- ・自治会とまちづくりは役員が重ならないようにしており、運営も分けている。
- ・若い組織に任せて必要なときに、できるだけ多くの人に参加できるように協力している。皆が協力して運営する体制をつくるのが大事。
- ・まちづくり組織の事務局はセンター主事をお願いしたいと思うが、丸投げしてはいけないと思う。
- ・コーディネーターやセンター職員から情報ももらっていて、大切なことだと思う。
- ・まちづくりの役員は1年では中身が分からない。
- ・まちづくりに必要な行政部署との連携は大事である。
- ・市や議員は地域の人と一緒にあって、まちづくりをリードしてほしい。
- ・まちづくりセンター職員の負担は増加しているが、勤務時間には制限があり、サービス残業も行っている状況。見直しが必要だと思う。
- ・交付金に事業割（事業別ヒアリングによる増額）を取り入れてほしい。
- ・地区サポーター制度に期待している。
- ・災害時の情報把握に役立つことから、集会所にケーブル回線を整備してWi-Fiがあると若い人が会合に来やすくなる。
- ・市職員の地域参加と意識醸成、リーダー化を図ってほしい。
- ・議会の地域井戸端会の開催日程は、常会の日程と重ならないようにしてほしい。併せて住民への開催周知のためのPR方法を考えてほしい。
- ・多くの事業を実施している事から総合交付金が少ない。算出方法の検討を。
- ・次世代の役員交代が問題。
- ・新たな事業等のアンケートをしたが意見が少ない。過去事業の検討を。
- ・自治会組織の役員が若い(1~2年で交代)がまちづくりの役員は経験が必要。
- ・イベントをするときはスタッフを増やして取り組むように企画。
- ・自治会とまちづくりは分けて運営。会費と交付金の分配。
- ・若い人の参加が少ない。若手の育成意見を取り入れてほしい。
- ・年寄り世代が頑張っている。若い世代に応援できる仕組みを年寄りが考える。
- ・地域で何ができるか悩み。先進地視察などを行う。
- ・新年会を開催しその中で事業計画について意見を出してもらおう？
- ・自治会とまちづくり会議の両方に参加するがいまだに区別が分からない。
- ・支所防災自治課の職員に相談しながらも一緒に協力をして進めている。
- ・まちづくり推進委員の任期について3年は担ってほしい。

提言に反映させるべき内容

- ・協働のまちづくりの理念や仕組みが住民に浸透していないので、あらためて意識の醸成を図る必要がある。
- ・まちづくりの参考となる情報の共有。
- ・交付金の増額。
- ・行政職員、議員のまちづくりへの参加。
- ・地域サポーターの配置。

所感

岡本

- ・活動の大小はあるが皆さん一生懸命取り組んでおられることが分かった。地域活動に次世代や子育て世代、子どもの参加が少ない事情は他地域と共通している。次世代の発掘とつながる方策に取り組み、若者・女性の事業を大事にしている。活動に応分の支援策は必要と考える。

柳楽

- ・若者の参加に成功しつつある組織もあるが、大方は若者の参加や役員のなり手不足に課題を抱えておられる。そもそも協働のまちづくりに対する理解が進んでいないことで、まちづくり組織を運営する側の方たちも進めにくい状況にあるように思った。地域の維持、活性化のために一生懸命に取り組むための予算の確保についての訴えが大きいと感じることから、改めて予算配分の見直しが必要と考える。

上野

- ・6か所のまちづくりセンターから2名ずつの参加があり、ほとんどの委員が計画策定時はおられなかった。まちづくりセンターがまだ住民に認知されておらず、また、若い世代の参加が少ないとの声が多かった。自治会、まちづくり組織と一緒に活動しているところがほとんど。今福だけは自治会は、若い方に任せて、まちづくりは地域の住民で5つの部会を町内会、地域団体代表等31人で高齢者家庭の草刈りや、剪定等多くの事業をやっておられ、しっかりしたリーダーがおられ感動した。

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書（三隅地域）

実施日、会場（ 12月11日、三隅まちづくりセンター ）

出席委員（ 西田、村木、岡本、川神 ）

地区まちづくり推進委員会出席者（ 名 ）

意見交換会で出た意見

①まちづくり推進計画策定時に悩んだことや困ったこと

- ・過去の5年間の資料を見て策定しているがよその取組の情報提供を望む。
- ・自治会をやめて、まちづくり委員会を運営しているが役員不足が悩み。
- ・第2次策定中のアンケートで住民の関心が低い、買い物弱者に配慮なし。
- ・つくることが目的となって達成へのプロセスが必要。スタッフが欲しい。
- ・設立当初のメンバーは充て職が多く、第2次計画に役員が集まらない。
- ・立上げ当初と比べ、行政の押し付け依頼が増えたと感じている。
- ・自治会とまちづくりの二重構造に留意しながら事業計画を策定している。
- ・地区まちづくり推進計画は、福祉、農業、地域、教育ほか7～8項目のその地域のあるべき姿や目指す姿について定めている。
- ・役員の刷新をした（昭和から令和への転換）。
- ・総合振興計画・各アクションプラン・地区まちづくり推進計画・地域計画が繋がっていない。
- ・地区まちづくり推進計画策定には、8名程度の地域役員と外部専門委員を中心とした「未来創生会」を立ち上げて策定。
- ・地区内のありとあらゆる団体と意見交換を実施。外部の力も借りて、今まで幅を利かせてきた旧体制を打破して連合自治会を解散。
- ・役員中心で回っており壁にぶち当たっていた。結局、いかに若者を取り込み、他の地域と連携するかということがとても重要であるかに気付いた。

②推進委員会の運営に悩みや困り事

- ・幅広い年代に参加してもらいたいが少ない状況どうすればよいか悩む。
- ・5年計画策定を進めるがメンバーが変わらない。子ども会の参加なし。
- ・地域住民にまちづくりを理解させる取組を。市も議会も取組を求める。
- ・自治会とまちづくりの違いが分からない状況。参加でなく参画を伝える。
（やってもらおうのではなく、一緒にすることを地域住民に周知すること）
- ・事業も同じメンバーで世帯数が少ない状況から、参加者の減少が悩み。
- ・子ども会の立場で30代の若手役員に参画。親子で役員をする状況に悩み。
- ・何か月に1回の集会案内に、はがきなどを送るが参加者が少ない。
- ・役員を兼務している状況（役員の受け手がいない）に悩む。
- ・自分の子どもを他人に預かってもらって会議に出る意欲がなくなっている。
- ・子育て世代等の親同士の横のつながりが無い。
- ・スマホでつながる時代で顔を見えない状況が悩み。
- ・事業をやっても役員を中心とした参加者となり、幅広い年齢層の参加者がいない現状がある。
- ・役員の決め方が大変である。

- ・ 動ける方が動ける時に動けることをする理念でやっている。
 - ・ 自治会不要論について→役員の軽減、地域組織の見直し
 - ・ 今後、まちづくりセンターが民営化になった場合のことも考える必要がある。
 - ・ 若者が参加しないのではなく、若者に情報が伝わっていないのである。若者への声の掛け方で参画すれば、自分の意見を聴いてもらえ、実現すれば興味を持つはず。
 - ・ 推進委員会の運営は、義務感では上手くいかない。役職の兼職は避けてより多くの住民が、まちづくりに参加できるように考慮し年齢は関係なしで元気な住民が頑張ることを重視。
 - ・ まちづくり推進計画を進めるため事務局は職員でない方が…。
- ③まちづくりセンター・コーディネーター・市との関わりは
- ・ まちづくりセンターとの関わりはあるが、ほかはない。
 - ・ 昨年まで市ではサロンの関わりがあった。
 - ・ 市の課題解決交付金の財政支援は大きい。
 - ・ 定期的な会議に市も市議会もコーディネーターも参加してほしい。
 - ・ センターの事務局と自治会が一つにつながっている。
 - ・ 住民参加に仕掛けが必要。行政に考えてほしい。
 - ・ コーディネーターの役割が不明である。明確に示してほしい。
 - ・ コーディネーターは結果の情報発信ではなく開催の案内を発信してほしい。
 - ・ ネット世代になって、コーディネーターの活動情報をネットツール発信。
 - ・ 各まちづくりセンターでホームページを立ち上げ月初めに情報発信を。
 - ・ コーディネーターとの関わりはない。もっと市職員が地域に出向いてほしい。
- ④議会や市に求めたいこと
- ・ 今の人は情報を取りに行く。インターネット等の情報発信は大事である。
 - ・ 地域に貢献できる世代をまちづくりに参画してもらうよう誘導を。
 - ・ 「三隅氏 800 年事業を楽しんでやっていきましょう」の意気込みが欲しい。
 - ・ 岡見の役員の平均年齢は 75 才。いつまでできるか今後も不安。
 - ・ 事務局の充実は大事である。若い世代が会長になっても楽に運営ができる。
 - ・ 小規模なまちづくりには市職の支援が必要。
 - ・ 三隅地区の防災無線の地域活動に利用できるよう要望。
 - ・ 総合交付金の算定について（加算の増設）。
 - ・ まちづくりセンターに草刈りの雇用等事業所としての権限と予算を付けてほしい。
 - ・ 総合交付金において、ある程度の「飲み会」も必要であるので制限の撤廃又は上限を上げる検討をすべき。そもそものコミュニケーションの場である。
 - ・ まちづくりの収益事業における市町民県民税の賦課を一考できないか。法律の範囲かもしれないが、特区とか考えることはあるはず。
 - ・ 市職員や議員が視察をした後の報告の場が必要である。

提言に反映させるべき内容

村木

- ・総合交付金のあり方の検討。特に加算と地区まちづくり推進計画の予算との整合性。
- ・コーディネーターのあり方。地区まちづくり委員会設置後の活動アドバイス。
- ・まちづくりセンター職員の「まちづくり」への関わりと、市職員が地区まちづくり推進計画を知るべきである。

川神

- ・まちづくり総合交付金に対する「加算」の提案
地区面積、人口密度、若者数、僻地度数、環境整備等実情に合わせた加算係数を算定時に考慮したらどうか？そのための総額1億円の総予算の大幅増加。
- ・地域で行う収益事業に対する非課税の提案（地方税法上厳しいが！）
- ・まちづくり推進委員会の事務局職員能力は事業展開に大きく影響する。またその事務局スタッフはまちづくり委員会できちんと雇用するべきではないか。
- ・まちづくりコーディネーターの人材や関わり方を十分検討する。まちづくり委員会が立ち上がっているエリアに対するコーディネーターの関わり方と今から立ち上げを目指すエリアに対するコーディネーターの関わり方は異なる。また今後コーディネーターの人選に、より専門性を持つ人材を登用すべき。

西田

- ・自治会と地区まちづくり推進委員会が二重構造にならないような組織体制を構築する。
- ・まちづくりセンターに組織体制を守り、サポートできる人員配置が必要。
- ・まちづくりの情報発信や伝達手段に防災行政無線の活用を検討する。
- ・幅広い年代に参画してもらうため、協働のまちづくりの趣旨の理解と参画する意識の醸成を行政は推進してほしい。

所感

村木

- ・私が最初の一般質問で提言した通り、地区まちづくり推進計画書を図書館に配置し、更に、各部署の手元に置いて、意識して仕事すべきと感じた。
- ・また、私個人も苦手であるが、情報発信というより、どのように伝えるのか、どうしたら伝わるのかが大切であると痛感した。
- ・「社会教育」は、社会から教わる学びです。その社会が変われば、自ずと教わり学ぶことも変わります。変革ではなく、その社会に合った体制や組織、制度更に発信をキャッチすることが私たち議員に必要なだと思いました。

岡本

- ・三隅地区の協働のまちづくりは市内でも先進地である。これまでの苦労話と今悩んでいる状況を伺った。これまでに浜田や金城などの地域でも課題になっている子育て世代などの参画がないことが大きな課題としてある。
- ・新たな計画策定において参加もしくは参画の手法について努力されているリーダーの方々の姿に敬意を表したい。
- ・それぞれに活動している状況などの情報が、共有できると励みや目標にもなるのではないかと思う。

川神

- ・地区まちづくり推進委員会のメンバーの方々が計画策定から運営に至るまで予想以上に地域の仲間と真剣に協議し、多くの課題を乗り越えて魅力ある地域創りのために頑張っていることを言葉の端々から強く感じました。地域の結束で地域課題を解決するための「協働のまち」の実現のために各委員会の意見をしっかり拝聴し、市議会も地区まちづくり推進委員会にもっと寄り添うべきと感じた。～地区の発展は住民の熱い想いによる～

西田

- ・2班に分かれて別室でヒアリングを行った。6つの地区まちづくり推進委員会がそれぞれ地域主体で取り組んできており、今後の体制づくりやまちづくりに防災無線の活用といった具体的、前向きな意見が多かったように感じた。

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書 (旭地域)

実施日、会場 (12月13日、和田まちづくりセンター)

出席委員 (西田、上野、村武、芦谷)

地区まちづくり推進委員会出席者 (名)

意見交換会で出た意見

①計画策定時の悩み事、困りごと

- ・課題が多すぎて、実現性のあるものから見直しながら7つの柱を立てた。
- ・計画を創ることが、目標になってはいけない。
- ・自治区制度を廃止して、協働のまちづくりといっても新しい起爆剤的なものが、何も示されていなかった。
- ・旧市内と周辺との温度差があり、特性はあるが、スローガンが見えてこない。
- ・旭町の中でも5センターの認識にそれぞれ特性がある。
- ・13年前の計画策定時にいた委員がいないので策定時の悩みは分からない。

②運営に際しての悩み事、困りごと

- ・次の世代が居ない。強制的に参加してもらっているのが実態。
- ・自分の地域のことなのに活動に参加してくれない。
- ・後継者が出てこない。充て職的に出してもらおう。バトンを渡す相手がいない。同じ人に役が集中してしまう。
- ・子どもにはここでしかできない田舎の良さを体験してほしい。帰ってくるのか？
- ・地域への思いを持った人材が少ない。
- ・若い人は、よその田んぼの草刈りをなぜするのか疑問を持つ。
- ・地区内だけに見られる広報の取組もしている。
- ・人員の整理ができた。盛り上げたいが原動力がない。これから高齢化でもっと大変になる。
- ・県境に近い山奥は条件が違う。会議も距離があり若者は仕事で、集まる人も少ない。1人暮らしが増えている。
- ・コロナ禍で気力がなかった。来年を目指し計画作成中。アンケートをしたが関心が薄い。活動内容が分かる取組が必要。
- ・団地の若い世代を巻き込みたい。若い子育て世代は大変。
- ・部会の維持、部員の確保を。
- ・行事は少ないが昔からの行事を大切にしてお人集めをしている。
- ・センターになり住民にどこまでやるか理解してもらえなかった。地域に任せ切りの感じがするが少しずつ変化している。
- ・市木地区のように月1度は住民が会える機会を設け、絆づくりに力を入れる。
- ・事務的なことより地域の住民と関わることを大事にしている。

③センター、コーディネーター、市との関わり

- ・自治会と一緒にセンターの負担が大きくなった。悩んだが高齢化で役員のなり手が少ない。
- ・熱い思いを持っている人材は、役を離れてもまちづくりセンターに来て力を発揮している。

地区まちづくり推進委員会との意見交換会 報告書（旭地域）

- ・農地が荒れることが一番の心配。地域主体で視察等、財源が必要なとき、まちづくりセンターから市との連携が重要。
 - ・コーディネーターが最初は地区担当だったが、今は全体のコーディネーターなので相談する気になれない。
 - ・まちづくりセンターが3人体制になったのが良かった。
 - ・木田が初めてまちづくり推進委員会と自治会を一本化した。
 - ・いろいろな団体（JA、社協、議会、市・・・）との関わりの中で、予算が減るので元気が出てこない。
- ④議会（特別委員会）や市に求めたい支援や期待するもの
- ・地域には良し悪しの財産（空き家、遊休農地等）がいっぱいある。活用を。
 - ・一人に役の数が減らない（役害）。克服する良い事例を紹介してほしい。
 - ・大学の生徒を活用して地域と一緒に活動してほしい。
 - ・車いすごとの移送サービス事業が切られた。復活してほしい。透析患者が2名。旭で1台あれば。提言しても返事がない。
 - ・教職員住宅2世帯、2名、錆で雨漏り寸前。言っても取り上げられない。他に空いたところは取り壊した。
 - ・このようなヒアリングの繰り返し。地域から上がってくる問題への返答（解決策）を。
 - ・予算の選択と集中を。
 - ・浜田市の職員が元気でないと良い仕事ができない。
 - ・地域協議会からも声を届ける。問題提起を。

提言に反映させるべき内容

村武

- ・まちづくり推進委員会でどのようにまちづくりを進めていけばいいのか、また具体的な活動についてのアドバイスが必要である。まちづくりコーディネーター、センター職員のスキルアップと支援体制の充実。
- ・他地域の事例なども共有できる仕組みが必要。
- ・まちづくりに関わる地域住民の意識の醸成。人材育成。

西田

- ・地域からの要望、提言に対して誠意ある返事（回答）を。
- ・地域の組織づくり、体制を市民が参画しやすいように再構築したらどうか（できるだけシンプルに）。
- ・市職員と市民が元気でモチベーションが維持できるように予算の選択と集中を。

所感

村武

- ・旭地域では、多くのまちづくり委員会が真剣に取り組んでいる。しかし、地域住民の意識の低さがあり、活動に関わる方の固定化、人材不足が課題である。地域の課題を集め、解決していく方法が分からない委員会が多い。そこはまちづくりコーディネーターやセンター職員、また担当課職員がきめ細かに対応する必要がある。コーディネーターやセンター職員の役割（具体的な）を再考し、認識していく必要があると感じた。

上野

- ・人口の少ない地区ほど月1回の常会、ホタル祭りや広島県との神楽共演など地域のつながりを保とうと努力している。町外から多くの人を集める神楽など地域全体で取り組み、毎年楽しみにしておられる。そこに、議員や市の職員が来ればもっと盛り上がる。

西田

- ・2班に分かれてヒアリングを行った。5つの地区まちづくり推進委員会が取り組んでこられた地域特性を生かした思いや考え方を素直に聞くことができたように思う。

令和 年 月 日

政策討論会幹事会会長 様

〇〇委員会委員長 〇〇〇〇

会派 〇〇 代表 〇〇〇〇

政策討論会議題提案書

浜田市議会政策討論会幹事会規程第4条の規定により、下記のとおり議題を提案します。

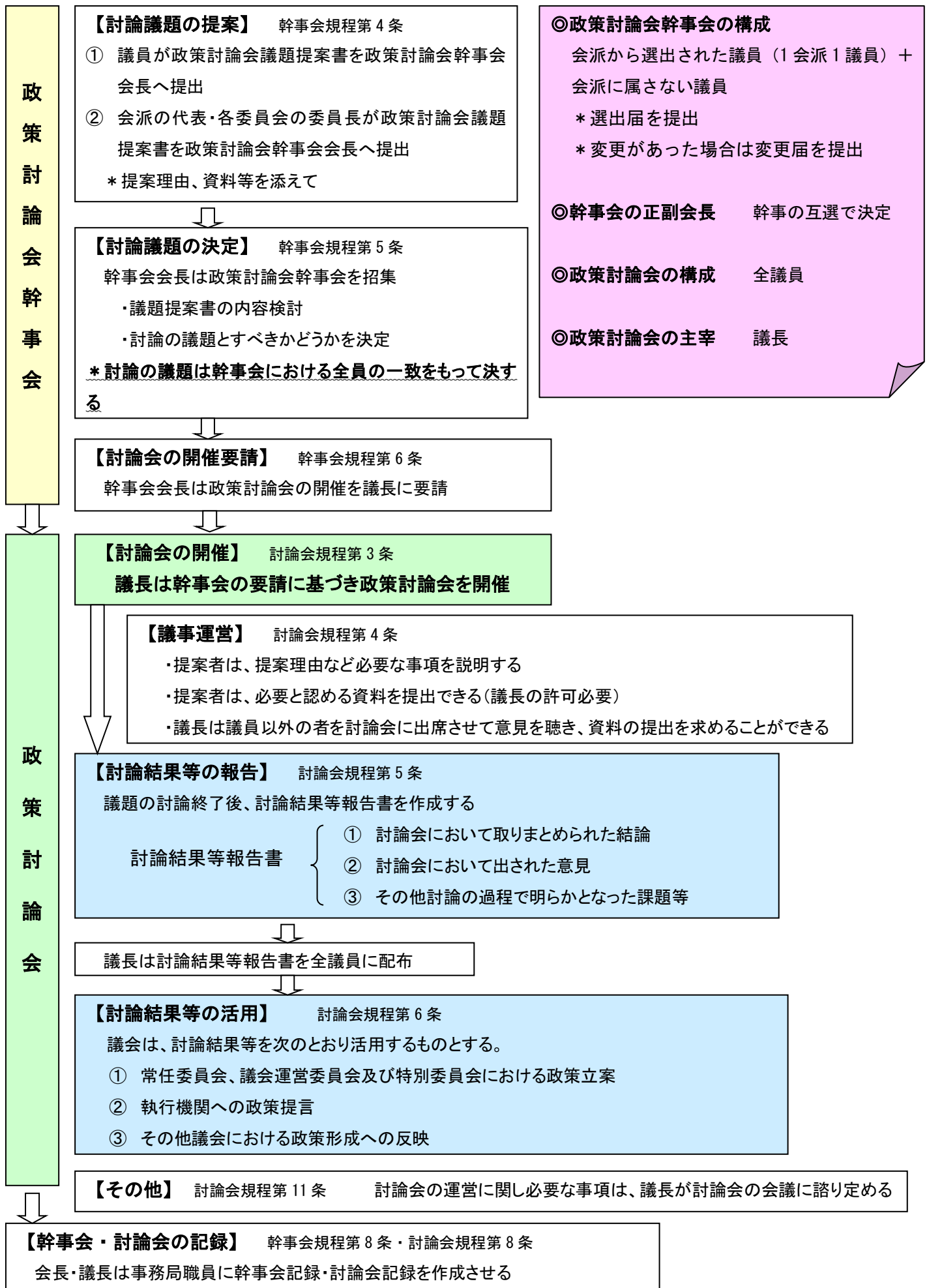
記

1. 政策討論会の議題

2. 提案理由

3. 資料など

政策討論会幹事会・政策討論会のフロー



令和6年度上半期CATV行政情報番組テーマの募集について

- 1 番組名 浜田市行政情報番組「浜っ子タイムズ」
- 2 時間 15分間
- 3 内容 毎月1テーマの行政情報を市の担当者が出演し、告知する番組。
石見CATVのアナウンサーとの掛け合いの中で、写真や動画、
文字スーパー等を利用しながら、説明していく。
※ 浜田市ホームページ内で過去の番組を公開しています。
- 4 放送月 令和6年度上半期（令和6年4月～令和6年9月）
- 5 報告期限 令和6年1月5日（金）

○下記項目を記入してください。

1、内容

【 浜田市議会から～協働のまちづくりを進めるために～ 】

2、放送希望月

【 4月もしくは5月 】

3、備考

【 議員が出演 】

4、担当者

【 議会事務局 】
